

第3章 学校施設の老朽化状況

第3章 学校施設の老朽化状況

学校施設の老朽化状況は、「構造躯体の健全性調査」と「構造躯体以外の劣化状況調査」の2つに分けて把握・評価します。

これらの評価結果から、保全の優先順位付け、保全方針・基準の見直しにつなげます。



第1節 構造躯体の健全性の把握

1 構造躯体の健全性の調査方法

(1) 調査方法

建物は、その構造躯体の健全性が確保されてはじめて、長期間使用することができませんが、施工時の状況、その後の使用状況または立地環境によって、使用できる年数が異なります。

そのため、長寿命化の実施方針を立てるには、建物ごとに構造躯体の健全性を把握する必要があります。構造躯体の健全性の評価は、専門知識を有する技術者が現地調査や材料試験を行ったうえで評価するものですが、今回は効率的に把握するために、過去の耐震診断時の調査結果を用いて簡易的な健全性評価を実施しました。

(2) 対象施設

200 m²を超える面積を有する旧耐震基準の建物(280棟)のうち、耐震診断を行った建物256棟(小学校165棟、中学校74棟、義務教育学校3棟、中高一貫校4棟、幼稚園10棟)

(3) 評価方法

ア 鉄筋コンクリート造(RC造)建物の評価方法

耐震診断報告書における構造躯体データのうち、コンクリート圧縮強度とコンクリート中性化深さのデータを用いて、次のとおり評価します。

圧縮強度	低強度(13.5N/mm ² 未満)の場合は、長寿命化に適さないと判断
中性化深さ	調査時点で30mmに達しているものは、長寿命化に適さないと判断
中性化の進行速度	調査時点で理論値よりも中性化の進行が早ければ、長寿命化に適さないと判断

なお、中性化の進行速度を評価することで、理論上は構造躯体の残存耐用年数を求めることができますが、今回はサンプル数の限られた過去の調査データを用いたため、評価結果は期待できる使用年数(築後年数)として、「80年以上」「60～80年」「60年未満」の3区分で取りまとめます。

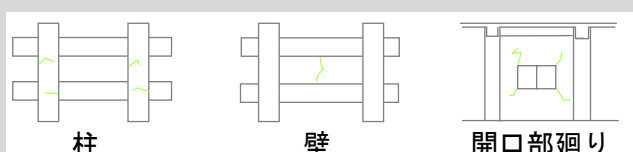
構造躯体の健全性とは

建築物の使用年数の限界は、構造躯体の物理的な劣化による時期、あるいは社会的・技術的な変化により機能・性能の相対的な価値が失われる時期が考えられます。

長寿命化において、構造躯体の耐用年数まで使い続けることをめざす場合、構造躯体が健全であることを確認する必要があります。

鉄筋コンクリートに生じる劣化には、①コンクリートの変質・組織崩壊・ひび割れ・欠けなどのコンクリート自身の劣化と、②鉄筋の腐食とに大別できます。

通常、これらの劣化現象は単独で発生しますが、個々の劣化現象は互いに助長しあう関係にあります。例えば、鉄筋がコンクリートの中酸化や塩分の進入によって腐食すると、コンクリートのひび割れや剥落などの劣化を招きます。また、コンクリートに組織破壊やひび割れが生じると、鉄筋の腐食が促進されます。



コンクリートのひび割れ



コンクリートの中酸化深さ

(資料：文部科学省「学校施設の長寿命化改修の手引」)

コンクリートの中酸化

大気中の二酸化炭素がコンクリート中に侵入し、コンクリートをアルカリ性から中性に変えていく現象をいい、中酸化の進む速さは時間の平方根に比例することが知られています。

コンクリートの中酸化が進行すると内部の鉄筋がさびやすい状況になり、コンクリートのひび割れや剥落の原因になります。

イ 鉄骨造（S造）建物の評価方法

耐震診断報告書における構造躯体データのうち、内部鉄骨健全度データを用いて評価します。

2 構造躯体の健全性の調査結果

(1) 耐震診断時の構造躯体データによる評価集計

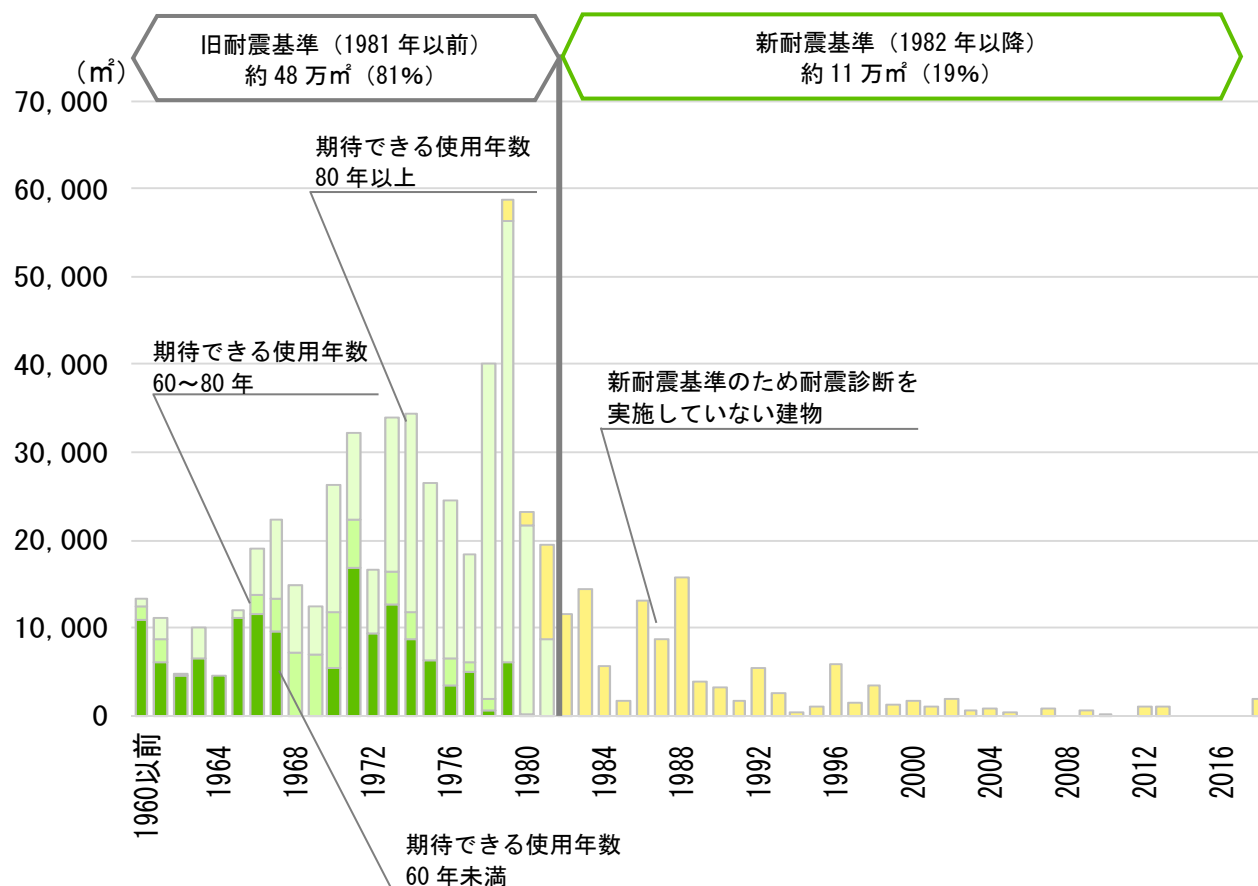
耐震診断報告書がある 256 棟のうち、期待できる使用年数（築後年数）が 80 年以上と判定された建物が 179 棟、60～80 年と判定された建物が 19 棟、60 年未満と判定された建物が 58 棟です。

なお、学校別の調査結果は資料編 1 を参照してください。

(棟)

建物別	期待できる使用年数			計
	60年未満	60～80年	80年以上	
小学校	35 (21%)	16 (10%)	114 (69%)	165 (100%)
中学校	19 (26%)	2 (3%)	53 (71%)	74 (100%)
義務教育学校	0 (0%)	0 (0%)	3 (100%)	3 (100%)
中高一貫校	2 (50%)	1 (25%)	1 (25%)	4 (100%)
幼稚園	2 (20%)	0 (0%)	8 (80%)	10 (100%)

(2) 築年別評価結果集計 (図 3-1-1)



3 新耐震基準の建物について

これまで耐震診断を実施していない新耐震基準の建物については、おおむね築 35～40 年で構造躯体健全性調査（詳細調査）を行い、長寿命化の可否を判定したうえで期待できる使用年数に応じた改修を行います。

第2節 構造躯体以外の劣化状況の把握

1 構造躯体以外の劣化状況の調査方法

(1) 調査方法

定期的に行っている建築物定期点検の点検結果及び専門知識を有する技術者の現地調査により構造躯体以外の劣化状況を把握しました。

(2) 調査対象

小学校	78校（232棟）
中学校	33校（122棟）
義務教育学校	1校（5棟）
中高一貫校	1校（6棟）
幼稚園	10園（12棟）
給食センター	2棟

(3) 調査内容

建物の性能や機能を維持していくうえで把握しておくべき部位について、その仕様と劣化状況を写真及び目視確認により把握します。設備は、現地の目視確認だけでは評価できないため、設置・更新からの経過年数を把握します。この調査結果から、直近で対応しなければならない工事内容とそのコストの算出につなげます。

表 部位ごとの現地調査内容


部位	主な調査項目
屋根・屋上	<ul style="list-style-type: none">・仕様の確認・雨漏りの有無・防水面の劣化状況・金属屋根の劣化状況
外壁	<ul style="list-style-type: none">・仕様の確認・鉄筋露出の有無・外装材の劣化状況・外部開口部の仕上げ（アルミサッシ・スチール・木等）・外部その他（外部階段、屋上手摺等の鉄部）

2 構造躯体以外の劣化状況の評価方法

屋根・屋上，外壁の劣化状況は目視により，内部仕上げ，電気設備及び機械設備は設置・更新からの経過年数を基本に以下の判断基準に照らし，A～Dの4段階で評価します。


(1) 屋根・屋上，外壁の目視による評価基準

次の基準でA～Dの評価を実施します。

	評価	基準
良好  劣化	A	概ね良好
	B	部分的に劣化 (安全上，機能上，問題なし)
	C	広範囲に劣化 (安全上，機能上，不具合発生の兆し)
	D	早急に対応する必要がある (安全上，機能上，問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている) 等

(2) 内部仕上げ，電気設備，機械設備の評価基準

設置・更新からの経過年数を基本に評価します。

	評価	基準
良好  劣化	A	20年未満
	B	20年～40年未満
	C	40年以上
	D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

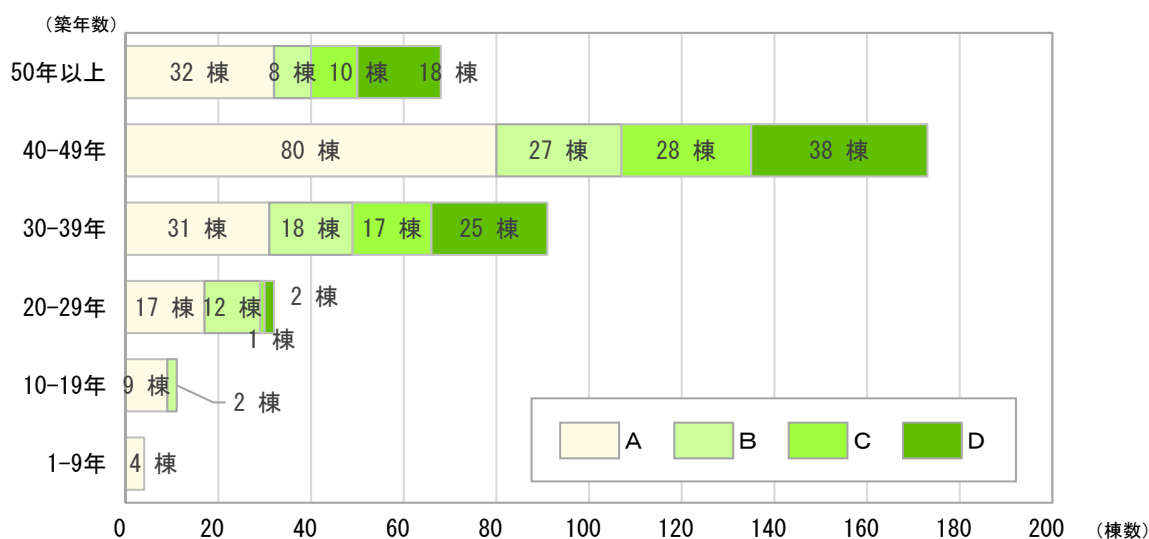
3 構造躯体以外の劣化状況の評価結果

今回の現地調査で目視点検を行った屋根・屋上と外壁について、築年数別の劣化状況をそれぞれ示します。

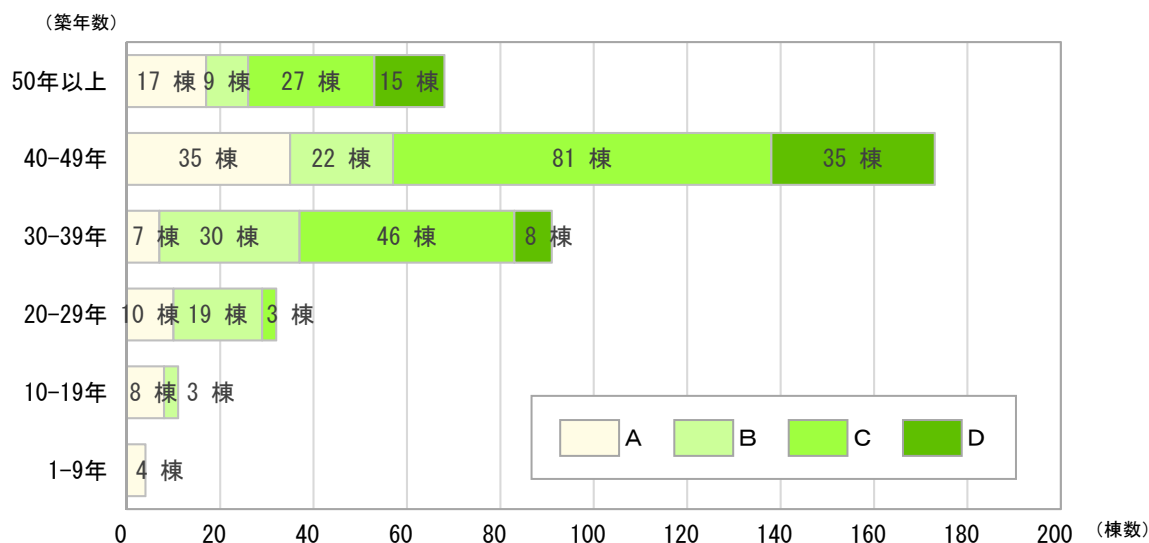
築20年を超えるとC評価（広範囲の劣化事象）やD評価（早急な対応が必要な事象）が見られるようになり、築30年を超えるとそれが急増し、改修時期を迎えていることが分かります。

なお、学校別の調査結果は資料編2を参照してください。

(1) 屋根・屋上の劣化状況評価結果（図3-2-1）



(2) 外壁の劣化状況評価結果（図3-2-2）



(3) 部位別劣化状況

部位改修を実施していますが、早急に対応する必要がある部位(D評価)が見られる状況です。











今回の現地調査で目視点検を行った屋根・屋上と外壁について、経過年数別の劣化状況を校舎と屋内運動場に分けてそれぞれ示します。

ア 校舎

(7) 屋上

経過年数	劣化評価の分布	D評価	C評価
50年～ 53棟	<p>修繕・改修が行われており57%の校舎は問題がないといえます。残り43%の校舎は劣化の進行が見られ2回目の改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <p>A 53% B 4% C 14% D 29%</p>	<p>樹徳小 南棟 (建築後52年・改修後30年)</p>	<p>川口小 南棟 (建築後53年・改修後27年)</p>
40～49年 122棟	<p>修繕・改修が行われており63%の校舎は問題がないといえます。残り37%の校舎は劣化の進行が見られ2回目の改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <p>A 46% B 17% C 13% D 24%</p>	<p>東小 南棟 (建築後41年)</p>	<p>蔵王小 校舎棟 (建築後46年)</p>
30～39年 61棟	<p>修繕・改修が行われており52%の校舎は問題がないといえます。残り48%の校舎は劣化の進行が見られ、改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <p>A 43% B 9% C 5% D 43%</p>	<p>高島小 校舎棟 (建築後33年)</p>	<p>水呑小 南棟 (建築後35年)</p>
20～29年 15棟	<p>修繕・改修が行われており86%の校舎は問題がないといえます。残り14%の校舎は劣化の進行が見られ、改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <p>A 67% B 19% C 2% D 12%</p>	<p>城東中 北棟 (建築後26年)</p>	<p>広瀬小 校舎棟 (建築後24年)</p>
10～19年 6棟	<p>老朽化が顕在化していません。</p> <p>延床面積比</p> <p>A 62% B 38%</p>	—	—

- A 概ね良好
- B 部分的に劣化（安全上，機能上，問題なし）
- C 広範囲に劣化（安全上，機能上，不具合発生の兆し）
- D 早急に対応する必要がある（安全上，機能上，問題あり）

B 評価	A 評価
<p>光小 南棟（建築後 52 年・改修後 19 年）</p> 	<p>神村小 北棟（建築後 57 年・改修後 3 年）</p> 
<p>樹徳小 北棟（建築後 48 年・改修後 18 年）</p> 	<p>泉小 北棟（建築後 48 年・改修後 7 年）</p> 
<p>至誠中 校舎棟（建築後 38 年・改修後 6 年）</p> 	<p>今津小 南棟（建築後 39 年・改修後 9 年）</p> 
<p>城東中 技術棟・武道場（建築後 29 年）</p> 	<p>明王台小 北棟（建築後 23 年）</p> 
<p>郷分幼稚園 保育管理棟（建築後 16 年）</p> 	<p>神辺中 技術棟（建築後 10 年）</p> 

(1) 外壁





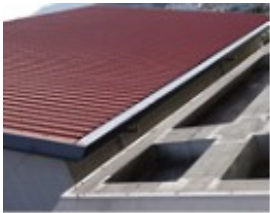




経過年数	劣化評価の分布	D評価	C評価								
50年～ 53棟	<p>修繕・改修が行われており 30%の校舎は問題がないといえます。残り 70%の校舎は劣化の進行が見られ 2 回目の改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>18%</td> <td>12%</td> <td>44%</td> <td>26%</td> </tr> </table>	A	B	C	D	18%	12%	44%	26%	<p>樹徳小 南棟 (建築後 52 年・改修後 30 年)</p> <p>遠景 近景</p>	<p>熊野小 北棟 (建築後 52 年・改修後 19 年)</p> <p>遠景 近景</p>
A	B	C	D								
18%	12%	44%	26%								
40～49年 122棟	<p>修繕・改修が行われており 24%の校舎は問題がないといえます。残り 76%の校舎は劣化の進行が見られ 2 回目の改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8%</td> <td>16%</td> <td>56%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8%	16%	56%	20%	<p>西小 南棟 (建築後 46 年)</p> <p>遠景 近景</p>	<p>春日小 南棟 (建築後 49 年・改修後 22 年)</p> <p>遠景 近景</p>
A	B	C	D								
8%	16%	56%	20%								
30～39年 61棟	<p>修繕・改修が行われており 35%の校舎は問題がないといえます。残り 65%の校舎は劣化の進行が見られ、改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>12%</td> <td>23%</td> <td>49%</td> <td>16%</td> </tr> </table>	A	B	C	D	12%	23%	49%	16%	<p>箕島小 校舎棟 (建築後 38 年)</p> <p>遠景 近景</p>	<p>藤江小 北棟 (建築後 38 年)</p> <p>遠景 近景</p>
A	B	C	D								
12%	23%	49%	16%								
20～29年 15棟	<p>修繕・改修が行われており 95%の校舎は問題がないといえます。残り 5%の校舎は劣化の進行が見られ、改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>23%</td> <td>72%</td> <td>5%</td> </tr> </table>	A	B	C	23%	72%	5%	—	<p>有磨小 北棟 (建築後 29 年)</p>		
A	B	C									
23%	72%	5%									
10～19年 6棟	<p>老朽化が顕在化していません。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>44%</td> <td>56%</td> </tr> </table>	A	B	44%	56%	—	—				
A	B										
44%	56%										

B 評価	A 評価
<p>曙小 南棟 (建築後 50 年・改修後 14 年)</p>   <p>遠景 近景</p>	<p>向丘中 南棟 (建築後 56 年・改修後 8 年)</p>   <p>遠景 近景</p>
<p>旭小 北棟 (建築後 49 年・改修後 19 年)</p>   <p>遠景 近景</p>	<p>深津小 北棟 (建築後 49 年・改修後 1 年)</p>   <p>遠景 近景</p>
<p>高島小 校舎棟 (建築後 33 年)</p>   <p>遠景 近景</p>	<p>日吉台小 南棟 (建築後 39 年・改修後 6 年)</p>   <p>遠景 近景</p>
<p>城東中 北棟 (建築後 26 年)</p>   <p>遠景 近景</p>	<p>東村小 校舎棟 (建築後 27 年)</p> 
<p>中条小 中棟 (建築後 17 年)</p> 	<p>内海小 給食棟 (建築後 14 年)</p> 

イ 屋内運動場


(7) 屋根

経過年数	劣化評価の分布	D評価	C評価										
50年～ 15棟	<p>修繕・改修が行われており 89%の校舎は問題がないといえます。残り 11%の校舎は劣化の進行が見られ 2 回目の改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <th>劣化評価</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>19%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>5%</td> </tr> </table>	劣化評価	割合	A	70%	B	19%	C	6%	D	5%	<p>東中 屋内運動場 (建築後 58 年)</p>	<p>引野小 屋内運動場 (建築後 51 年)</p>
劣化評価	割合												
A	70%												
B	19%												
C	6%												
D	5%												
40～49年 51棟	<p>修繕・改修が行われており 68%の校舎は問題がないといえます。残り 32%の校舎は劣化の進行が見られ 2 回目の改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <th>劣化評価</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>19%</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>13%</td> </tr> </table>	劣化評価	割合	A	59%	B	9%	C	19%	D	13%	<p>久松台小 屋内運動場 (建築後 40 年)</p>	<p>中央中 屋内運動場 (建築後 45 年)</p>
劣化評価	割合												
A	59%												
B	9%												
C	19%												
D	13%												
30～39年 30棟	<p>修繕・改修が行われており 54%の校舎は問題がないといえます。残り 46%の校舎は劣化の進行が見られ改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <th>劣化評価</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>7%</td> </tr> </table>	劣化評価	割合	A	15%	B	39%	C	39%	D	7%	<p>駅家西小 屋内運動場 (建築後 36 年)</p>	<p>川口東小 屋内運動場 (建築後 38 年)</p>
劣化評価	割合												
A	15%												
B	39%												
C	39%												
D	7%												
20～29年 12棟	<p>老朽化が顕在化していません。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <th>劣化評価</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>69%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>31%</td> </tr> </table>	劣化評価	割合	A	69%	B	31%	—	—				
劣化評価	割合												
A	69%												
B	31%												
10～19年 5棟	<p>老朽化が顕在化していません。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <th>劣化評価</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>100%</td> </tr> </table>	劣化評価	割合	A	100%	—	—						
劣化評価	割合												
A	100%												

B 評価	A 評価
<p>新市小 屋内運動場（建築後 50 年・改修後 8 年）</p> 	<p>駅家小 屋内運動場（建築後 52 年・改修後 8 年）</p> 
<p>駅家東小 屋内運動場（建築後 42 年）</p> 	<p>春日小 屋内運動場（建築後 41 年・改修後 11 年）</p> 
<p>千年小 屋内運動場（建築後 35 年）</p> 	<p>赤坂小 屋内運動場（建築後 31 年）</p> 
<p>明王台小 屋内運動場（建築後 23 年）</p> 	<p>光小 屋内運動場（建築後 28 年）</p> 
<p>—</p>	<p>網引小 屋内運動場（建築後 17 年）</p> 

(1) 外壁

経過年数	劣化評価の分布	D評価	C評価										
50年～ 15棟	<p>修繕・改修が行われており 71%の校舎は問題がないといえます。残り 29%の校舎は劣化の進行が見られ 2 回目の改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>66%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>16%</td> </tr> </table>	評価	割合	A	66%	B	5%	C	13%	D	16%	<p>東中 屋内運動場 (建築後 58 年)</p> <p>遠景 近景</p>	<p>引野小 屋内運動場 (建築後 51 年)</p> <p>遠景 近景</p>
評価	割合												
A	66%												
B	5%												
C	13%												
D	16%												
40～49年 51棟	<p>修繕・改修が行われており 63%の校舎は問題がないといえます。残り 37%の校舎は劣化の進行が見られ 2 回目の改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>9%</td> </tr> </table>	評価	割合	A	53%	B	10%	C	28%	D	9%	<p>西深津小 屋内運動場 (建築後 41 年)</p> <p>遠景 近景</p>	<p>箕島小 屋内運動場 (建築後 41 年)</p> <p>遠景 近景</p>
評価	割合												
A	53%												
B	10%												
C	28%												
D	9%												
30～39年 30棟	<p>修繕・改修が行われており 52%の校舎は問題がないといえます。残り 48%の校舎は劣化の進行が見られ 2 回目の改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>49%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>48%</td> </tr> </table>	評価	割合	A	3%	B	49%	C	48%	—	<p>内海小 屋内運動場 (建築後 37 年)</p> <p>遠景 近景</p>		
評価	割合												
A	3%												
B	49%												
C	48%												
20～29年 12棟	<p>修繕・改修が行われており 96%の校舎は問題がないといえます。残り 4%の校舎は劣化の進行が見られ、改修時期を迎えています。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>4%</td> </tr> </table>	評価	割合	A	62%	B	34%	C	4%	—	<p>三谷分校 屋内運動場 (建築後 28 年)</p>		
評価	割合												
A	62%												
B	34%												
C	4%												
10～19年 5棟	<p>老朽化が顕在化していません。</p> <p>延床面積比</p> <table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>100%</td> </tr> </table>	評価	割合	A	100%	—	—						
評価	割合												
A	100%												

B 評価	A 評価
<p>加茂小 屋内運動場（建築後 51 年・改修後 10 年）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 遠景 近景 </div>	<p>培遠中 屋内運動場（建築後 51 年・改修後 8 年）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 遠景 近景 </div>
<p>旭丘小 屋内運動場（建築後 45 年・改修後 12 年）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 遠景 近景 </div>	<p>山南小 屋内運動場（建築後 40 年・改修後 7 年）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 遠景 近景 </div>
<p>千年小 屋内運動場（建築後 35 年）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 遠景 近景 </div>	<p>今津小 屋内運動場（建築後 39 年）</p> <div style="text-align: center;">  </div>
<p>広瀬小 屋内運動場（建築後 24 年）</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<p>鞆の浦学園（旧鞆小）屋内運動場（建築後 29 年・改修後 3 年）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 遠景 近景 </div>
<p style="text-align: center;">—</p>	<p>水呑小 屋内運動場（建築後 12 年）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 遠景 近景 </div>

4 学校施設の老朽化状況の実態を踏まえた課題

(1) 構造躯体の健全性について

過去の耐震診断時の調査結果を用いた簡易評価により構造躯体の健全性を把握しましたが、長寿命化に必要な強度が不足し、期待できる使用年数が60年未満となった建物は小学校35棟、中学校19棟、中高一貫校2棟、幼稚園2棟の計58棟となりました。

これらの建物は、築後60年程度での建替えを行う必要があるほか、その他の建物についても、耐震診断を行っていない新耐震基準の建物や、耐震診断から実際の改修工事までに相当の時間が経過しているものについては、改修工事に先立って構造躯体の健全性を調査する必要があり、その結果によっては、長寿命化改修から建替えに方針転換しなければならない建物が増加する可能性があります。

(2) 構造躯体以外の劣化状況について

今回の調査結果では、老朽化が進行している建物が多いことや、事後保全が常態化している実態があることから、広範囲に劣化が見られると判断されるC評価や、早急に対応する必要があると判断されるD評価が多く見受けられました。

今後は、劣化が著しい建物の修繕や改修に取り組むとともに、安心・安全な施設環境を確保するためにも、事後保全から計画的な予防保全へと方針を転換する必要があります。